

## 出雲の山城登山 その2

藤井 諭

### 真山・白鹿山

3月24日定例山行に16名で登った(写真)。真山登山口から真山、大高丸と白鹿山を経て長谷正面登山口へ下った。帰りに常福寺にも立ち寄り、歩行時間は約4時間。真山城は毛利軍の尼子攻めの時に毛利方の吉川元春が陣を敷いた。山頂部(256m)を中心に曲輪群で構成されている。尼子の居城の白鹿城を見下ろし、白鹿谷を挟んで大高丸と小高丸の尼子方砦と対峙している。尼子晴久の再起時には尼子軍が真山に陣をかまえた。

白鹿山(150m)の白鹿城は、月山富田城に次ぐ尼子軍の重要な拠点だった。毛利軍は荒隈城(現在の南平台付近)を拠点として、鉄砲戦で白鹿城を攻めた。和久羅城を落とされて富田城との連絡を絶たれた白鹿城はついに陥落した。今は柩のある山頂部が、白鹿城の本丸だったと言われている。長谷正面登山道を下る途中に多くの土塁や堅堀が認められる。小白鹿が前衛で、大高丸と小高丸は砦だったようだ。鳥ノ子山を挟んで毛利と尼子が対峙していたことになる



### 勝山城跡・京羅木山

3月19日有志8名で登った。おちらと村のパフレットによると、荒田コースの登山口は足立美術館から山側へ入った所とある。しかし車で入ると民家の前でドン詰まってしまった。民家の方から「ここには登山口はないので登山口まで案内する」と言われた。軽トラで先導された登山口はお寺の奥にあった。おちらと村のパフレットは全く違っていた。案内していただいた地元の方に感謝した。登山口に標識はなくいくつか分岐するので、初めて登る人は地図のトレースに従うと良い。

尾根沿いに登ると約50分で平坦な勝山城跡に着く。山頂部に4つの曲輪群があり、数えきれないほど多くの堅堀と空堀で囲まれている。東曲輪からの眺望は素晴らしく、月山の動きが手に取るようにわかった。吉川元春による富田城攻めの拠点となった。

さらに40分登ると山道は十字路となる。北に5分登ると八束群・能義郡・安来市の堺である三郡山がある。ここは毛利の砦であり、月山が良く見え京羅木山の本陣も同時に見える。この日はこの本陣跡で月山富田城を見下ろしながら、毛利元就の気分で昼食を摂った。勝山城跡の尾根を一望でき、月山攻撃には勝山城跡がより近く



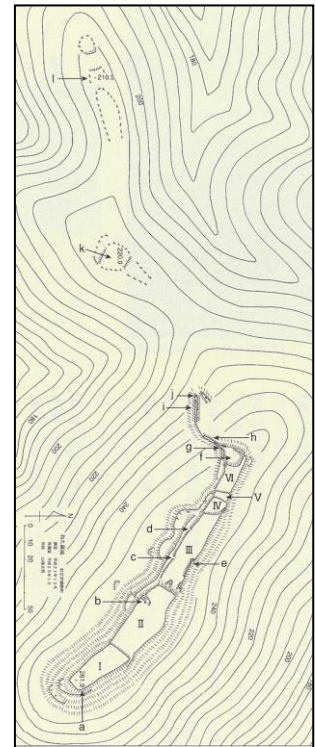
て便利であることが理解できた。また三郡山は、本陣を守る砦として好位置にあることも理解できた。

### 和久羅山

3月27日に山頂での花見を兼ねて有志10名で登った。桜には少し早かったが、今岡氏が最近発見された神社跡を見ることができた。弥勒山の急斜面にはロープが張られて道が整備されていた。神社跡にはりっぱな狛犬が2体あった。

和久羅山には尼子方の和久羅城があった。毛利は荒隈城（南平台付近）に布陣し白鹿城を攻めたが、富田城の援護でなかなか陥落できなかった。和久羅山は宍道湖と中海を結ぶ大橋川の水上交通を制圧できる重要な位置にある。そこで毛利は和久羅城を奪い富田城からの援護を断った。その結果、尼子の白鹿城は耐え切れず陥落した。その後、和久羅城は毛利の重要な出城となった。

和久羅城の主郭（右図のⅠ）は三角点のある平地だった。登山者が休憩する展望地はⅡ郭であり、その入り口は城門にあたる虎口（こぐち）であった。弥勒山方向へ1段下ったⅢ郭にも虎口があった。そしてⅣ郭、Ⅴ郭、Ⅵ郭と続く。弥勒山付近にも曲輪の跡が認められ、図の上部に当たる。



### 熊野要害山

6月29日単独。熊野城は熊野久忠によって築かれた。尼子方として毛利軍の大将の吉川元春と戦い、数千丁の鉄砲の攻撃を受けたが落ちることはなかった。しかし尼子家復興戦で毛利輝元に包囲され、山中鹿之助の兵糧入れが失敗し開城した歴史がある。

県道53号線で熊野大社を過ぎると、若州谷入口に駐車場と熊野城跡の案内板がある。舗装道路を約10分で登山口の標識がある。整備された登山道で谷を詰め、ロープを張った急斜面を登り25分で山頂の熊野城主郭（右写真）である。途中に自然石を使った石垣があり、主郭の登り口には八幡宮跡があった。



主郭は広々として展望は抜群である。大出日から天狗山、星上山から京羅木山、八雲山、そして中海が望めた。下界には昔に城下町だった街が広がって見られた。東側に広い郭が2段認められたが、文献によるとさらに下まで続いているようだ。南側は数段の郭が続き、草が刈られた阿弥陀堂跡や井戸跡があった。下段から主郭を見上げると、多くの郭に守られて堅牢な城であったことがわかる。

**参考文献** 高屋茂男編：出雲の山城，ハーベスト出版，2014

最終回には月山富田城、月山の歴史ポイント、最後の戦いの地だった布部城跡について述べる。  
(つづく)